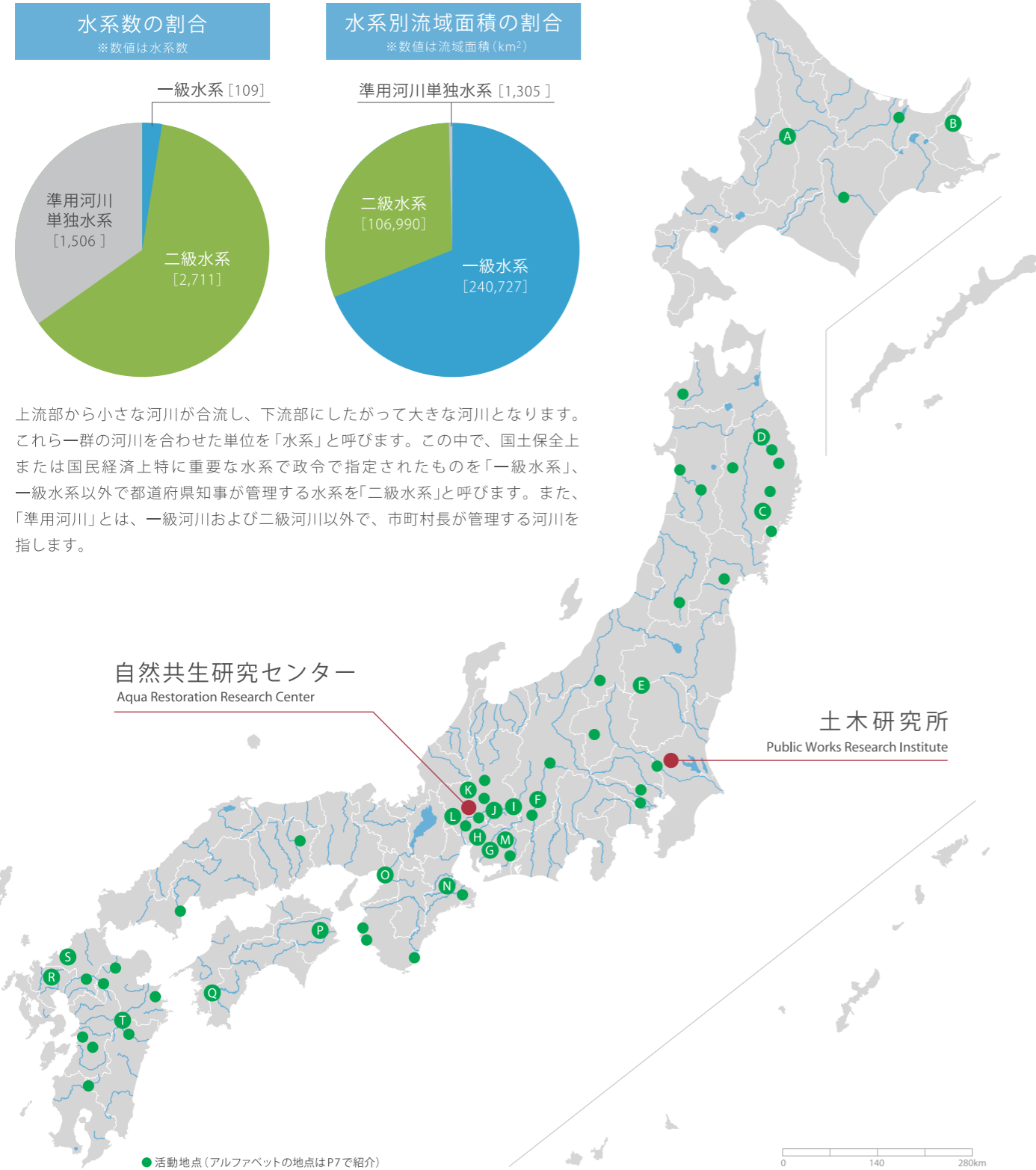


# 河川環境の未来を考えて活動する

## 自然共生研究センターの主な活動記録

### 【日本の河川】



### 自然共生研究センターでは日本全国で調査、講演、技術指導を行っています

<p>石狩川等、直轄9河川における二枚貝の生息調査をもとに、様々な河川で活用できる氾濫原環境の評価手法の開発を行いました。</p>	<p>河道の蛇行が再生され、瀬・淵構造が発達した区間を対象に、河川中の一次生産速度の変化を調査しました。</p>	<p>直線河道における単調な水際域を木杭と石を用いて改善する工法を導入し、その後にモニタリング調査を行いました。</p>	<p>多自然川づくりアドバイザー制度による技術指導を行いました。山間地の河川で、幅幅による岩掘削と河畔林の保全について議論しました。</p>
<p>湯西川ダム工事事務所の連携により、電力発電ダムの稼働停止に伴う山地河川の環境変化を多角的に評価する研究を行いました。</p>	<p>小波ダムでは土砂バイパストンネルによる下流への土砂供給が行われており、土砂供給に伴う生物環境の経年変化をモニタリングしました。</p>	<p>矢作第二ダム等のダム下流を対象に、河床の粗粒化とそれによる河川生物(付着藻類、魚類等)の変化の把握のため、野外調査を行いました。</p>	<p>庄内川河川事務所と共同で、水制工設置による早瀬の維持等やワンドの造成を行い、放水路の環境修復に取り組みました。</p>
<p>ダム下流を対象に、支川合流後における生物の回復状況を把握することに加え、土砂還元の効果を検証するために、野外調査を行いました。</p>	<p>二枚貝やイタセンバラを指標生物とした氾濫原環境(ワンド・たまり)の保全手法の開発を行いました。</p>	<p>二枚貝の生息地保全のために、生息実態調査、水路環境の整備、二枚貝の移植手法の検討などを行いました。</p>	<p>高水敷掘削による氾濫原環境の創出効果を把握するため、掘削後に形成されたワンド・たまりの量、二枚貝の生息量等を調査しました。</p>
<p>多自然川づくりアドバイザー制度による技術指導を行いました。都市域の人の利用にも配慮しつつ河道内の環境形成を促すよう幅幅を行いました。</p>	<p>天然記念物ネコギギの昼間の生息場所特性を明らかにし、絶滅河川での再生に資する潜在的な生息場所の予測を行いました。</p>	<p>国土交通省近畿地方整備局と大阪府が主催した企画展の企画・制作に協力し、魚道の基礎知識と現場の取り組み、魚道を利用する生物の営みを紹介しました。</p>	<p>那賀川総合土砂管理の中の上流域にあたる長安口ダムを対象に、下流の土砂還元地点の状況等について調査を行いました。</p>
<p>坂本ダムを対象に、河川の持つ土砂供給特性の違いにより、ダム下流の河床生態系の改善の違いが見られるかについて、野外調査を行いました。</p>	<p>氾濫原に見られる生息場所を造成したアザメの瀬において、九州地方整備局と共同で河川環境研修を行いました。</p>	<p>第10回 いい川・いい川づくりワークショップin九州で「河川法改正20周年プログラム」のパネリストを務めました。</p>	<p>多自然川づくりアドバイザー制度による技術指導を行いました。山地溪流での多自然川づくりの貴重な事例となっています。</p>